《調査と資料》

朝鮮通信使史跡探索(九)

中川浩一

大井川を渡渉した日の宿泊地は、藤枝であった。この地で三使の宿泊に供されたのは、曹洞宗に属する龍池山洞雲寺と記録されている。藤枝志太仏教会が刊行する『藤枝・岡部・大井川の寺院』（平成十年）には、奈良時代の草創と伝えられるが、荒廃した後、再興したのは十六世紀になってからと記されている。関ヶ原の合戦へ出陣する徳川家康が休憩に立ち寄ったのが縁となり、幕府の保護を受ける地位を獲得した。〝二代将軍秀忠も上洛の折、洞雲寺に寄り絞付膳部を給付している。江戸時代、朝鮮通信使等も宿泊したことがあり、藤枝宿の名刹として名が知られていた〟由である[注1]が、天明五年（一七八五年）に火災で焼失し、さらに明治三一（一八九八）年にも火災にあったため、通信使の応接を記した文書や器物はなにも残っていないと、住職夫人は話された。

綺麗随一と評された寶泰寺

岡部を過ぎ、とろろ汁で著名な丸子の宿に至る間には、古くから蔦の細道と呼ばれ、歌枕になった宇津谷峠の険がある。東海道、国道1号線の要衝となってきたこの地点には、明治初年以来、いくつものトンネル掘削がなされてきた。

丸子を通過し、中食地となる府中（現・静岡）に着くためには、阿倍川を渡渉しなければならない。府中で三使への饗応の場となるのは、寶泰寺であった。

寺院の建物は、昭和十年代の静岡大火と戦災による二重の災禍に加え、寺域縮小によって往時の繁栄ぶりはうかがうべくもないが、朝鮮通信使とのかかわりは、寺歴を記す表示にも、次の様に明記されている。

寶泰禅寺（ほうたいぜんじ）

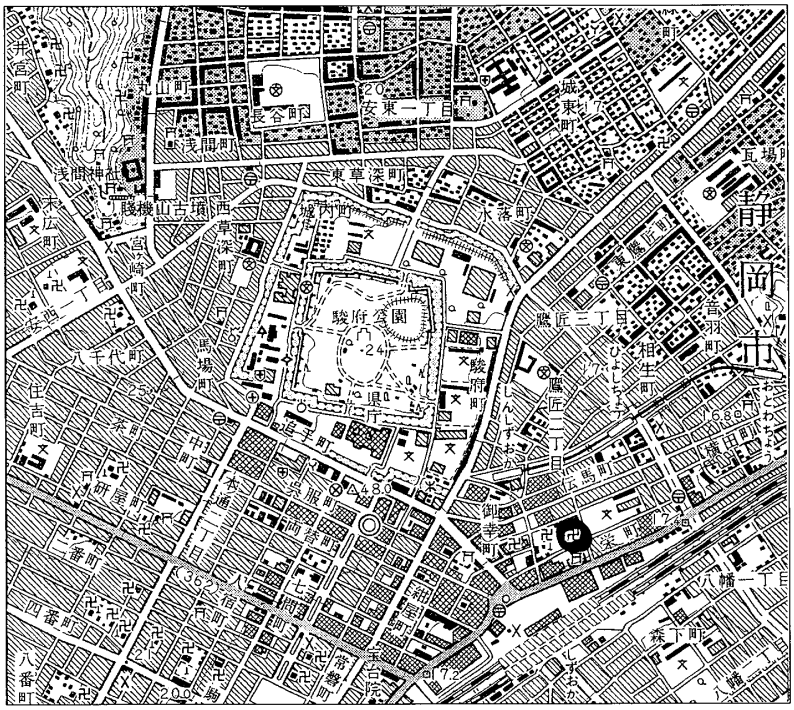
本山は一三八一年（永徳元年）に開創される。山号を金剛山と号し臨済宗に属す。後醍醐天皇の皇子無文元選を開山とし、雪峰禅師を中興とする。中興より妙心寺派となる。

江戸時代、朝鮮通信使の正使副使従事上官等の休憩所に宛てられ、綺麗第一の名を得た。府中の臨済寺、興津の清見寺とともに駿河三刹と称されている。寺内に今川家最後の勇将岡部正綱の墓、江戸後期の漢学者山梨稲川と儒医戸塚柳斎の碑などがある。またわらべ地蔵の庭としても知られている。

右の表示中に〝綺麗第一〟とあるのは、『海游録』からの引用であろう。往路、復路の双方で寶泰寺に言及するが、記事は往路が詳しい。

〝寺は、その綺麗なること国中第一、庭園には上下二つの池があり、石を削って堤としている。奇嶺を仰ぎ看れば、噴瀑があり、その長さ数十尺にして、池に落ちる。池中には石梁をたて、その左右には怪石や累卉を蓄えており、そのさまはとても名状できない。ここには、棕竹、金竹の奇がある。金竹は、たまに黄金色があり、内実が虚ろならず、博望侯がいうところの大夏印竹の属であろうか。

軒の前には板墻があり、墻外に橘樹を植えて、その一枝を引いて墻を穿ちて入れる。それが人の座席近くに実を結んで累々とし、見たところ新しい趣巧である。そのほかにも、高松、大竹、冬柏、枇杷の類



地図① 1：25,000 静岡東部 平成6年修正
㊍が寶泰寺 駿府公園は駿府城跡、浅間神社に隣接する東照宮に徳川家康を祀る

が、蒼々として四方にまつわって園林をなし、その樹間には別館がはなはだ多い〟[注2]

寶泰寺の境内は、現在も庭園が見事に造成されて往事をしのばせている。

地形図で検索した寺院の位置

朝鮮通信使の構成員が、宿泊した寺院にいくつもの書を残し、それらの中には扁額に仕立てられて掲出される事例があることを、すでに指摘した。それとは別に揮毫を求めて、さまざまの人が宿舎に参集したと記

写真① 寶泰寺の庭園と本堂(左)・庫裡 (1999年8月写)

録されてきたのだが、清水市内には、宿舎や休憩所となった清見寺以外に、四か処で朝鮮通信使構成員の書が扁額となって公開されている。

右に記した事実については、小笠郡菊川町在住の大庭正八氏から恵与された静岡県歴史研究会刊行の『歴史論叢』第四号（平成八年）に掲載の岡部芳雄氏執筆の論文（コピー）から、まず三か処を読みとった。

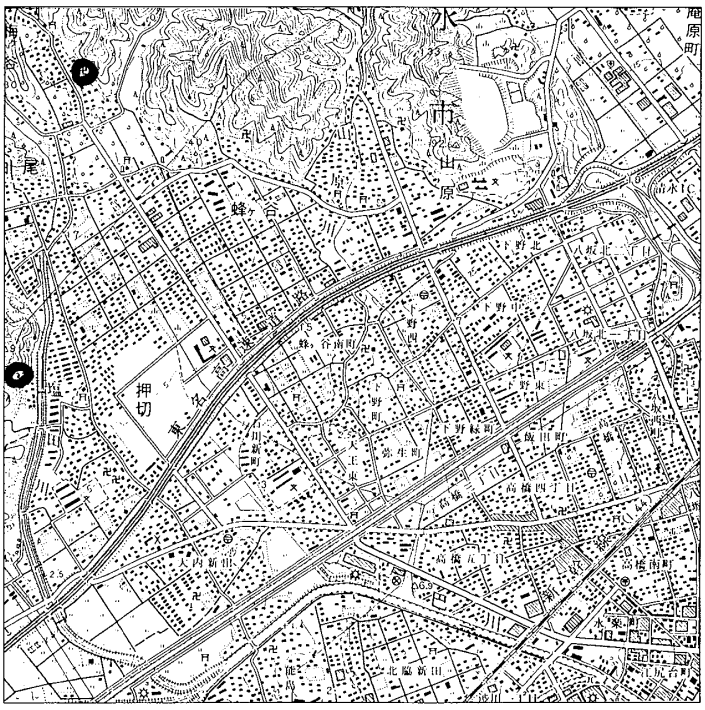
右記の文献には扁額が公開されているのは、梅ヶ谷の真珠院、押切の牛欄寺、駒越の萬象寺と記されている。これら三つの地名は、郵政省の『ぽすたるガイド』で存在を確認できる。次に、二万五千分の一「清水」図幅、「静岡東部」図幅で検索すると、どの地区からも寺院の記号を確認できるが、名称は判らない。だが幸にこの地域では一万分の一地形図が刊行されているので、「清水西部」「駒越」によってみると、いずれも寺名が記入されていた。意外であったのは、二万五千分の一地形図に記載される押切地区の寺院は牛欄寺ではなく、牛欄寺の位置には記号を欠いていたことである。

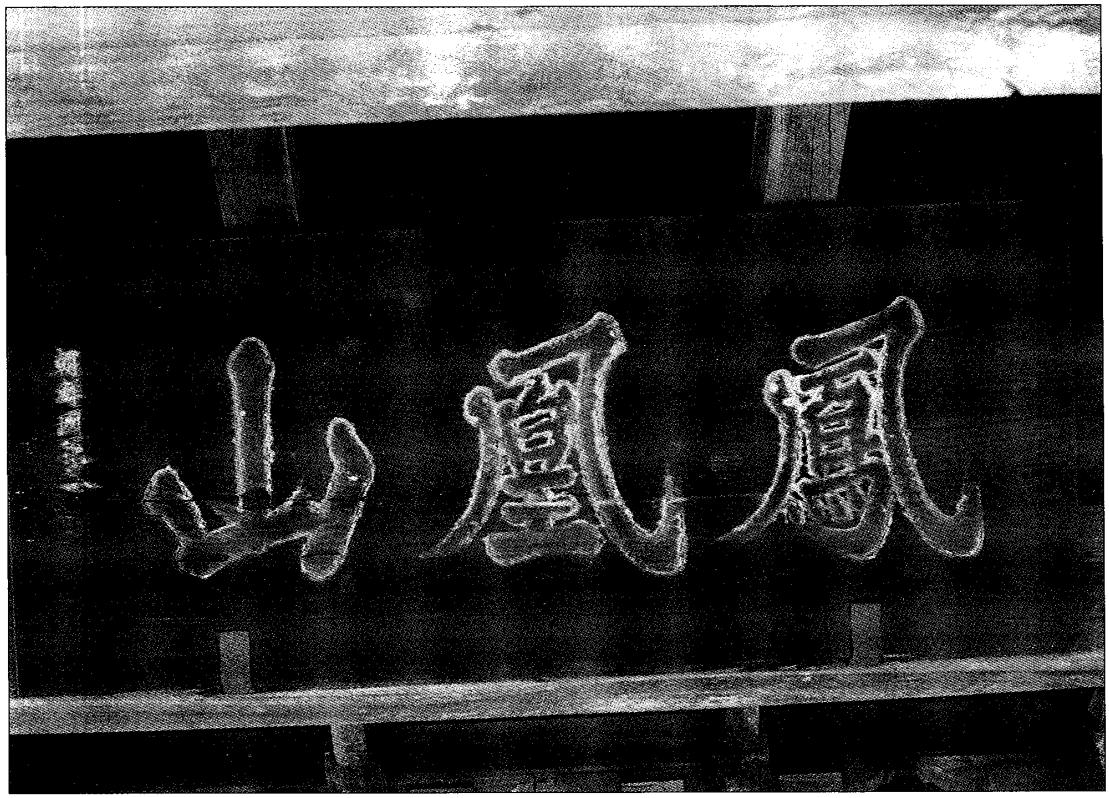
これだけを事前に確認のうえ、ＪＲ東海道本線利用で、清水に出向いてみた。駅前広場に設けられた静岡鉄道バスターミナルの案内所で交通の便を尋ねたら、梅ヶ谷を終点とするバス路線があり、また駒越へは、忠霊塔公園ゆきの別系統路線を利用のうえ、十分程度歩けば到達できるとの情報を得ることができた。

探すのにかなり手間どるのではと考えた寺院の位置が、個々の家屋を正確に記載し、そのうえに克明な注記を施す一万分の一地形図で容易に判別できたのは、真に幸いであった。

今川氏ゆかりの真珠院

清水駅から北西へ直線距離で約二キロ、巴川に合して折戸湾に流入する塩田川が、山地を出はずれた地点に、真珠院は位置している。本堂、庫裡は一万分の一地形図の図郭外に建っているが、記念碑の記号と「真珠院山門の注記を確認できた。第八次通信使の写字官李爾芳（花菴）が記した山号「鳳凰山」の扁額は、その山門に掲げられていた。


押切
蜂ヶ谷
高橋
高橋南町
高橋四丁目
高橋五丁目
高橋六丁目
高橋七丁目
高橋八丁目
高橋九丁目
高橋十丁目
高橋十一丁目
高橋十二丁目
高橋十三丁目
高橋十四丁目
高橋十五丁目
高橋十六丁目
高橋十七丁目
高橋十八丁目
高橋十九丁目
高橋二十丁目
高橋二十一丁目
高橋二十二丁目
高橋二十三丁目
高橋二十四丁目
高橋二十五丁目
高橋二十六丁目
高橋二十七丁目
高橋二十八丁目
高橋二十九丁目
高橋三十丁目
高橋三十一丁目
高橋三十二丁目
高橋三十三丁目
高橋三十四丁目
高橋三十五丁目
高橋三十六丁目
高橋三十七丁目
高橋三十八丁目
高橋三十九丁目
高橋四十丁目
高橋四十一丁目
高橋四十二丁目
高橋四十三丁目
高橋四十四丁目
高橋四十五丁目
高橋四十六丁目
高橋四十七丁目
高橋四十八丁目
高橋四十九丁目
高橋五十丁目
高橋五十一丁目
高橋五十二丁目
高橋五十三丁目
高橋五十四丁目
高橋五十五丁目
高橋五十六丁目
高橋五十七丁目
高橋五十八丁目
高橋五十九丁目
高橋六十丁目
高橋六十一丁目
高橋六十二丁目
高橋六十三丁目
高橋六十四丁目
高橋六十五丁目
高橋六十六丁目
高橋六十七丁目
高橋六十八丁目
高橋六十九丁目
高橋七十丁目
高橋七十一丁目
高橋七十二丁目
高橋七十三丁目
高橋七十四丁目
高橋七十五丁目
高橋七十六丁目
高橋七十七丁目
高橋七十八丁目
高橋七十九丁目
高橋八十丁目
高橋八十一丁目
高橋八十二丁目
高橋八十三丁目
高橋八十四丁目
高橋八十五丁目
高橋八十六丁目
高橋八十七丁目
高橋八十八丁目
高橋八十九丁目
高橋九十丁目
高橋九十一丁目
高橋九十二丁目
高橋九十三丁目
高橋九十四丁目
高橋九十五丁目
高橋九十六丁目
高橋九十七丁目
高橋九十八丁目
高橋九十九丁目
高橋百丁目
高橋百一丁目
高橋百二丁目
高橋百三丁目
高橋百四丁目
高橋百五丁目
高橋百六丁目
高橋百七丁目
高橋百八丁目
高橋百九丁目
高橋百十丁目
高橋百十一丁目
高橋百十二丁目
高橋百十三丁目
高橋百十四丁目
高橋百十五丁目
高橋百十六丁目
高橋百十七丁目
高橋百十八丁目
高橋百十九丁目
高橋百二十丁目
高橋百二十一丁目
高橋百二十二丁目
高橋百二十三丁目
高橋百二十四丁目
高橋百二十五丁目
高橋百二十六丁目
高橋百二十七丁目
高橋百二十八丁目
高橋百二十九丁目
高橋百三十丁目
高橋百三十一丁目
高橋百三十二丁目
高橋百三十三丁目
高橋百三十四丁目
高橋百三十五丁目
高橋百三十六丁目
高橋百三十七丁目
高橋百三十八丁目
高橋百三十九丁目
高橋百四十丁目
高橋百四十一丁目
高橋百四十二丁目
高橋百四十三丁目
高橋百四十四丁目
高橋百四十五丁目
高橋百四十六丁目
高橋百四十七丁目
高橋百四十八丁目
高橋百四十九丁目
高橋百五十丁目
高橋百五十一丁目
高橋百五十二丁目
高橋百五十三丁目
高橋百五十四丁目
高橋百五十五丁目
高橋百五十六丁目
高橋百五十七丁目
高橋百五十八丁目
高橋百五十九丁目
高橋百六十丁目
高橋百六十一丁目
高橋百六十二丁目
高橋百六十三丁目
高橋百六十四丁目
高橋百六十五丁目
高橋百六十六丁目
高橋百六十七丁目
高橋百六十八丁目
高橋百六十九丁目
高橋百七十丁目
高橋百七十一丁目
高橋百七十二丁目
高橋百七十三丁目
高橋百七十四丁目
高橋百七十五丁目
高橋百七十六丁目
高橋百七十七丁目
高橋百七十八丁目
高橋百七十九丁目
高橋百八十丁目
高橋百八十一丁目
高橋百八十二丁目
高橋百八十三丁目
高橋百八十四丁目
高橋百八十五丁目
高橋百八十六丁目
高橋百八十七丁目
高橋百八十八丁目
高橋百八十九丁目
高橋百九十丁目
高橋百九十一丁目
高橋百九十二丁目
高橋百九十三丁目
高橋百九十四丁目
高橋百九十五丁目
高橋百九十六丁目
高橋百九十七丁目
高橋百九十八丁目
高橋百九十九丁目
高橋二百丁目
高橋二百一丁目
高橋二百二丁目
高橋二百三丁目
高橋二百四丁目
高橋二百五丁目
高橋二百六丁目
高橋二百七丁目
高橋二百八丁目
高橋二百九丁目
高橋二百十丁目
高橋二百十一丁目
高橋二百十二丁目
高橋二百十三丁目
高橋二百十四丁目
高橋二百十五丁目
高橋二百十六丁目
高橋二百十七丁目
高橋二百十八丁目
高橋二百十九丁目
高橋二百二十丁目
高橋二百二十一丁目
高橋二百二十二丁目
高橋二百二十三丁目
高橋二百二十四丁目
高橋二百二十五丁目
高橋二百二十六丁目
高橋二百二十七丁目
高橋二百二十八丁目
高橋二百二十九丁目
高橋二百三十丁目
高橋二百三十一丁目
高橋二百三十二丁目
高橋二百三十三丁目
高橋二百三十四丁目
高橋二百三十五丁目
高橋二百三十六丁目
高橋二百三十七丁目
高橋二百三十八丁目
高橋二百三十九丁目
高橋二百四十丁目
高橋二百四十一丁目
高橋二百四十二丁目
高橋二百四十三丁目
高橋二百四十四丁目
高橋二百四十五丁目
高橋二百四十六丁目
高橋二百四十七丁目
高橋二百四十八丁目
高橋二百四十九丁目
高橋二百五十丁目
高橋二百五十一丁目
高橋二百五十二丁目
高橋二百五十三丁目
高橋二百五十四丁目
高橋二百五十五丁目
高橋二百五十六丁目
高橋二百五十七丁目
高橋二百五十八丁目
高橋二百五十九丁目
高橋二百六十丁目
高橋二百六十一丁目
高橋二百六十二丁目
高橋二百六十三丁目
高橋二百六十四丁目
高橋二百六十五丁目
高橋二百六十六丁目
高橋二百六十七丁目
高橋二百六十八丁目
高橋二百六十九丁目
高橋二百七十丁目
高橋二百七十一丁目
高橋二百七十二丁目
高橋二百七十三丁目
高橋二百七十四丁目
高橋二百七十五丁目
高橋二百七十六丁目
高橋二百七十七丁目
高橋二百七十八丁目
高橋二百七十九丁目
高橋二百八十丁目
高橋二百八十一丁目
高橋二百八十二丁目
高橋二百八十三丁目
高橋二百八十四丁目
高橋二百八十五丁目
高橋二百八十六丁目
高橋二百八十七丁目
高橋二百八十八丁目
高橋二百八十九丁目
高橋二百九十丁目
高橋二百九十一丁目
高橋二百九十二丁目
高橋二百九十三丁目
高橋二百九十四丁目
高橋二百九十五丁目
高橋二百九十六丁目
高橋二百九十七丁目
高橋二百九十八丁目
高橋二百九十九丁目
高橋三百丁目
高橋三百一丁目
高橋三百二丁目
高橋三百三丁目
高橋三百四丁目
高橋三百五丁目
高橋三百六丁目
高橋三百七丁目
高橋三百八丁目
高橋三百九丁目
高橋三百十丁目
高橋三百十一丁目
高橋三百十二丁目
高橋三百十三丁目
高橋三百十四丁目
高橋三百十五丁目
高橋三百十六丁目
高橋三百十七丁目
高橋三百十八丁目
高橋三百十九丁目
高橋三百二十丁目
高橋三百二十一丁目
高橋三百二十二丁目
高橋三百二十三丁目
高橋三百二十四丁目
高橋三百二十五丁目
高橋三百二十六丁目
高橋三百二十七丁目
高橋三百二十八丁目
高橋三百二十九丁目
高橋三百三十丁目
高橋三百三十一丁目
高橋三百三十二丁目
高橋三百三十三丁目
高橋三百三十四丁目
高橋三百三十五丁目
高橋三百三十六丁目
高橋三百三十七丁目
高橋三百三十八丁目
高橋三百三十九丁目
高橋三百四十丁目
高橋三百四十一丁目
高橋三百四十二丁目
高橋三百四十三丁目
高橋三百四十四丁目
高橋三百四十五丁目
高橋三百四十六丁目
高橋三百四十七丁目
高橋三百四十八丁目
高橋三百四十九丁目
高橋三百五十丁目
高橋三百五十一丁目
高橋三百五十二丁目
高橋三百五十三丁目
高橋三百五十四丁目
高橋三百五十五丁目
高橋三百五十六丁目
高橋三百五十七丁目
高橋三百五十八丁目
高橋三百五十九丁目
高橋三百六十丁目
高橋三百六十一丁目
高橋三百六十二丁目
高橋三百六十三丁目
高橋三百六十四丁目
高橋三百六十五丁目
高橋三百六十六丁目
高橋三百六十七丁目
高橋三百六十八丁目
高橋三百六十九丁目
高橋三百七十丁目
高橋三百七十一丁目
高橋三百七十二丁目
高橋三百七十三丁目
高橋三百七十四丁目
高橋三百七十五丁目
高橋三百七十六丁目
高橋三百七十七丁目
高橋三百七十八丁目
高橋三百七十九丁目
高橋三百八十丁目
高橋三百八十一丁目
高橋三百八十二丁目
高橋三百八十三丁目
高橋三百八十四丁目
高橋三百八十五丁目
高橋三百八十六丁目
高橋三百八十七丁目
高橋三百八十八丁目
高橋三百八十九丁目
高橋三百九十丁目
高橋三百九十一丁目
高橋三百九十二丁目
高橋三百九十三丁目
高橋三百九十四丁目
高橋三百九十五丁目
高橋三百九十六丁目
高橋三百九十七丁目
高橋三百九十八丁目
高橋三百九十九丁目
高橋四百丁目
高橋四百一丁目
高橋四百二丁目
高橋四百三丁目
高橋四百四丁目
高橋四百五丁目
高橋四百六丁目
高橋四百七丁目
高橋四百八丁目
高橋四百九丁目
高橋四百十丁目
高橋四百十一丁目
高橋四百十二丁目
高橋四百十三丁目
高橋四百十四丁目
高橋四百十五丁目
高橋四百十六丁目
高橋四百十七丁目
高橋四百十八丁目
高橋四百十九丁目
高橋四百二十丁目
高橋四百二十一丁目
高橋四百二十二丁目
高橋四百二十三丁目
高橋四百二十四丁目
高橋四百二十五丁目
高橋四百二十六丁目
高橋四百二十七丁目
高橋四百二十八丁目
高橋四百二十九丁目
高橋四百三十丁目
高橋四百三十一丁目
高橋四百三十二丁目
高橋四百三十三丁目
高橋四百三十四丁目
高橋四百三十五丁目
高橋四百三十六丁目
高橋四百三十七丁目
高橋四百三十八丁目
高橋四百三十九丁目
高橋四百四十丁目
高橋四百四十一丁目
高橋四百四十二丁目
高橋四百四十三丁目
高橋四百四十四丁目
高橋四百四十五丁目
高橋四百四十六丁目
高橋四百四十七丁目
高橋四百四十八丁目
高橋四百四十九丁目
高橋四百五十丁目
高橋四百五十一丁目
高橋四百五十二丁目
高橋四百五十三丁目
高橋四百五十四丁目
高橋四百五十五丁目
高橋四百五十六丁目
高橋四百五十七丁目
高橋四百五十八丁目
高橋四百五十九丁目
高橋四百六十丁目
高橋四百六十一丁目
高橋四百六十二丁目
高橋四百六十三丁目
高橋四百六十四丁目
高橋四百六十五丁目
高橋四百六十六丁目
高橋四百六十七丁目
高橋四百六十八丁目
高橋四百六十九丁目
高橋四百七十丁目
高橋四百七十一丁目
高橋四百七十二丁目
高橋四百七十三丁目
高橋四百七十四丁目
高橋四百七十五丁目
高橋四百七十六丁目
高橋四百七十七丁目
高橋四百七十八丁目
高橋四百七十九丁目
高橋四百八十丁目
高橋四百八十一丁目
高橋四百八十二丁目
高橋四百八十三丁目
高橋四百八十四丁目
高橋四百八十五丁目
高橋四百八十六丁目
高橋四百八十七丁目
高橋四百八十八丁目
高橋四百八十九丁目
高橋四百九十丁目
高橋四百九十一丁目
高橋四百九十二丁目
高橋四百九十三丁目
高橋四百九十四丁目
高橋四百九十五丁目
高橋四百九十六丁目
高橋四百九十七丁目
高橋四百九十八丁目
高橋四百九十九丁目
高橋五百丁目
高橋五百一丁目
高橋五百二丁目
高橋五百三丁目
高橋五百四丁目
高橋五百五丁目
高橋五百六丁目
高橋五百七丁目
高橋五百八丁目
高橋五百九丁目
高橋五百十丁目
高橋五百十一丁目
高橋五百十二丁目
高橋五百十三丁目
高橋五百十四丁目
高橋五百十五丁目
高橋五百十六丁目
高橋五百十七丁目
高橋五百十八丁目
高橋五百十九丁目
高橋五百二十丁目
高橋五百二十一丁目
高橋五百二十二丁目
高橋五百二十三丁目
高橋五百二十四丁目
高橋五百二十五丁目
高橋五百二十六丁目
高橋五百二十七丁目
高橋五百二十八丁目
高橋五百二十九丁目
高橋五百三十丁目
高橋五百三十一丁目
高橋五百三十二丁目
高橋五百三十三丁目
高橋五百三十四丁目
高橋五百三十五丁目
高橋五百三十六丁目
高橋五百三十七丁目
高橋五百三十八丁目
高橋五百三十九丁目
高橋五百四十丁目
高橋五百四十一丁目
高橋五百四十二丁目
高橋五百四十三丁目
高橋五百四十四丁目
高橋五百四十五丁目
高橋五百四十六丁目
高橋五百四十七丁目
高橋五百四十八丁目
高橋五百四十九丁目
高橋五百五十丁目
高橋五百五十一丁目
高橋五百五十二丁目
高橋五百五十三丁目
高橋五百五十四丁目
高橋五百五十五丁目
高橋五百五十六丁目
高橋五百五十七丁目
高橋五百五十八丁目
高橋五百五十九丁目
高橋五百六十丁目
高橋五百六十一丁目
高橋五百六十二丁目
高橋五百六十三丁目
高橋五百六十四丁目
高橋五百六十五丁目
高橋五百六十六丁目
高橋五百六十七丁目
高橋五百六十八丁目
高橋五百六十九丁目
高橋五百七十丁目
高橋五百七十一丁目
高橋五百七十二丁目
高橋五百七十三丁目
高橋五百七十四丁目
高橋五百七十五丁目
高橋五百七十六丁目
高橋五百七十七丁目
高橋五百七十八丁目
高橋五百七十九丁目
高橋五百八十丁目
高橋五百八十一丁目
高橋五百八十二丁目
高橋五百八十三丁目
高橋五百八十四丁目
高橋五百八十五丁目
高橋五百八十六丁目
高橋五百八十七丁目
高橋五百八十八丁目
高橋五百八十九丁目
高橋五百九十丁目
高橋五百九十一丁目
高橋五百九十二丁目
高橋五百九十三丁目
高橋五百九十四丁目
高橋五百九十五丁目
高橋五百九十六丁目
高橋五百九十七丁目
高橋五百九十八丁目
高橋五百九十九丁目
高橋六百丁目
高橋六百一丁目
高橋六百二丁目
高橋六百三丁目
高橋六百四丁目
高橋六百五丁目
高橋六百六丁目
高橋六百七丁目
高橋六百八丁目
高橋六百九丁目
高橋六百十丁目
高橋六百十一丁目
高橋六百十二丁目
高橋六百十三丁目
高橋六百十四丁目
高橋六百十五丁目
高橋六百十六丁目
高橋六百十七丁目
高橋六百十八丁目
高橋六百十九丁目
高橋六百二十丁目
高橋六百二十一丁目
高橋六百二十二丁目
高橋六百二十三丁目
高橋六百二十四丁目
高橋六百二十五丁目
高橋六百二十六丁目
高橋六百二十七丁目
高橋六百二十八丁目
高橋六百二十九丁目
高橋六百三十丁目
高橋六百三十一丁目
高橋六百三十二丁目
高橋六百三十三丁目
高橋六百三十四丁目
高橋六百三十五丁目
高橋六百三十六丁目
高橋六百三十七丁目
高橋六百三十八丁目
高橋六百三十九丁目
高橋六百四十丁目
高橋六百四十一丁目
高橋六百四十二丁目
高橋六百四十三丁目
高橋六百四十四丁目
高橋六百四十五丁目
高橋六百四十六丁目
高橋六百四十七丁目
高橋六百四十八丁目
高橋六百四十九丁目
高橋六百五十丁目
高橋六百五十一丁目
高橋六百五十二丁目
高橋六百五十三丁目
高橋六百五十四丁目
高橋六百五十五丁目
高橋六百五十六丁目
高橋六百五十七丁目
高橋六百五十八丁目
高橋六百五十九丁目
高橋六百六十丁目
高橋六百六十一丁目
高橋六百六十二丁目
高橋六百六十三丁目
高橋六百六十四丁目
高橋六百六十五丁目
高橋六百六十六丁目
高橋六百六十七丁目
高橋六百六十八丁目
高橋六百六十九丁目
高橋六百七十丁目
高橋六百七十一丁目
高橋六百七十二丁目
高橋六百七十三丁目
高橋六百七十四丁目
高橋六百七十五丁目
高橋六百七十六丁目
高橋六百七十七丁目
高橋六百七十八丁目
高橋六百七十九丁目
高橋六百八十丁目
高橋六百八十一丁目
高橋六百八十二丁目
高橋六百八十三丁目
高橋六百八十四丁目
高橋六百八十五丁目
高橋六百八十六丁目
高橋六百八十七丁目
高橋六百八十八丁目
高橋六百八十九丁目
高橋六百九十丁目
高橋六百九十一丁目
高橋六百九十二丁目
高橋六百九十三丁目
高橋六百九十四丁目
高橋六百九十五丁目
高橋六百九十六丁目
高橋六百九十七丁目
高橋六百九十八丁目
高橋六百九十九丁目
高橋七百丁目
高橋七百一丁目
高橋七百二丁目
高橋七百三丁目
高橋七百四丁目
高橋七百五丁目
高橋七百六丁目
高橋七百七丁目
高橋七百八丁目
高橋七百九丁目
高橋七百十丁目
高橋七百十一丁目
高橋七百十二丁目
高橋七百十三丁目
高橋七百十四丁目
高橋七百十五丁目
高橋七百十六丁目
高橋七百十七丁目
高橋七百十八丁目
高橋七百十九丁目
高橋七百二十丁目
高橋七百二十一丁目
高橋七百二十二丁目
高橋七百二十三丁目
高橋七百二十四丁目
高橋七百二十五丁目
高橋七百二十六丁目
高橋七百二十七丁目
高橋七百二十八丁目
高橋七百二十九丁目
高橋七百三十丁目
高橋七百三十一丁目
高橋七百三十二丁目
高橋七百三十三丁目
高橋七百三十四丁目
高橋七百三十五丁目
高橋七百三十六丁目
高橋七百三十七丁目
高橋七百三十八丁目
高橋七百三十九丁目
高橋七百四十丁目
高橋七百四十一丁目
高橋七百四十二丁目
高橋七百四十三丁目
高橋七百四十四丁目
高橋七百四十五丁目
高橋七百四十六丁目
高橋七百四十七丁目
高橋七百四十八丁目
高橋七百四十九丁目
高橋七百五十丁目
高橋七百五十一丁目
高橋七百五十二丁目
高橋七百五十三丁目
高橋七百五十四丁目
高橋七百五十五丁目
高橋七百五十六丁目
高橋七百五十七丁目
高橋七百五十八丁目
高橋七百五十九丁目
高橋七百六十丁目
高橋七百六十一丁目
高橋七百六十二丁目
高橋七百六十三丁目
高橋七百六十四丁目
高橋七百六十五丁目
高橋七百六十六丁目
高橋七百六十七丁目
高橋七百六十八丁目
高橋七百六十九丁目
高橋七百七十丁目
高橋七百七十一丁目
高橋七百七十二丁目
高橋七百七十三丁目
高橋七百七十四丁目
高橋七百七十五丁目
高橋七百七十六丁目
高橋七百七十七丁目
高橋七百七十八丁目
高橋七百七十九丁目
高橋七百八十丁目
高橋七百八十一丁目
高橋七百八十二丁目
高橋七百八十三丁目
高橋七百八十四丁目
高橋七百八十五丁目
高橋七百八十六丁目
高橋七百八十七丁目
高橋七百八十八丁目
高橋七百八十九丁目
高橋七百九十丁目
高橋七百九十一丁目
高橋七百九十二丁目
高橋七百九十三丁目
高橋七百九十四丁目
高橋七百九十五丁目
高橋七百九十六丁目
高橋七百九十七丁目
高橋七百九十八丁目
高橋七百九十九丁目
高橋八百丁目
高橋八百一丁目
高橋八百二丁目
高橋八百三丁目
高橋八百四丁目
高橋八百五丁目
高橋八百六丁目
高橋八百七丁目
高橋八百八丁目
高橋八百九丁目
高橋八百十丁目
高橋八百十一丁目
高橋八百十二丁目
高橋八百十三丁目
高橋八百十四丁目
高橋八百十五丁目
高橋八百十六丁目
高橋八百十七丁目
高橋八百十八丁目
高橋八百十九丁目
高橋八百二十丁目
高橋八百二十一丁目
高橋八百二十二丁目
高橋八百二十三丁目
高橋八百二十四丁目
高橋八百二十五丁目
高橋八百二十六丁目
高橋八百二十七丁目
高橋八百二十八丁目
高橋八百二十九丁目
高橋八百三十丁目
高橋八百三十一丁目
高橋八百三十二丁目
高橋八百三十三丁目
高橋八百三十四丁目
高橋八百三十五丁目
高橋八百三十六丁目
高橋八百三十七丁目
高橋八百三十八丁目
高橋八百三十九丁目
高橋八百四十丁目
高橋八百四十一丁目
高橋八百四十二丁目
高橋八百四十三丁目
高橋八百四十四丁目
高橋八百四十五丁目
高橋八百四十六丁目
高橋八百四十七丁目
高橋八百四十八丁目
高橋八百四十九丁目
高橋八百五十丁目
高橋八百五十一丁目
高橋八百五十二丁目
高橋八百五十三丁目
高橋八百五十四丁目
高橋八百五十五丁目
高橋八百五十六丁目
高橋八百五十七丁目
高橋八百五十八丁目
高橋八百五十九丁目
高橋八百六十丁目
高橋八百六十一丁目
高橋八百六十二丁目
高橋八百六十三丁目
高橋八百六十四丁目
高橋八百六十五丁目
高橋八百六十六丁目
高橋八百六十七丁目
高橋八百六十八丁目
高橋八百六十九丁目
高橋八百七十丁目
高橋八百七十一丁目
高橋八百七十二丁目
高橋八百七十三丁目
高橋八百七十四丁目
高橋八百七十五丁目
高橋八百七十六丁目
高橋八百七十七丁目
高橋八百七十八丁目
高橋八百七十九丁目
高橋八百八十丁目
高橋八百八十一丁目
高橋八百八十二丁目
高橋八百八十三丁目
高橋八百八十四丁目
高橋八百八十五丁目
高橋八百八十六丁目
高橋八百八十七丁目
高橋八百八十八丁目
高橋八百八十九丁目
高橋八百九十丁目
高橋八百九十一丁目
高橋八百九十二丁目
高橋八百九十三丁目
高橋八百九十四丁目
高橋八百九十五丁目
高橋八百九十六丁目
高橋八百九十七丁目
高橋八百九十八丁目
高橋八百九十九丁目
高橋九百丁目
高橋九百一丁目
高橋九百二丁目
高橋九百三丁目
高橋九百四丁目
高橋九百五丁目
高橋九百六丁目
高橋九百七丁目
高橋九百八丁目
高橋九百九丁目
高橋九百十丁目
高橋九百十一丁目
高橋九百十二丁目
高橋九百十三丁目
高橋九百十四丁目
高橋九百十五丁目
高橋九百十六丁目
高橋九百十七丁目
高橋九百十八丁目
高橋九百十九丁目
高橋九百二十丁目
高橋九百二十一丁目
高橋九百二十二丁目
高橋九百二十三丁目
高橋九百二十四丁目
高橋九百二十五丁目
高橋九百二十六丁目
高橋九百二十七丁目
高橋九百二十八丁目
高橋九百二十九丁目
高橋九百三十丁目
高橋九百三十一丁目
高橋九百三十二丁目
高橋九百三十三丁目
高橋九百三十四丁目
高橋九百三十五丁目
高橋九百三十六丁目
高橋九百三十七丁目
高橋九百三十八丁目
高橋九百三十九丁目
高橋九百四十丁目
高橋九百四十一丁目
高橋九百四十二丁目
高橋九百四十三丁目
高橋九百四十四丁目
高橋九百四十五丁目
高橋九百四十六丁目
高橋九百四十七丁目
高橋九百四十八丁目
高橋九百四十九丁目
高橋九百五十丁目
高橋九百五十一丁目
高橋九百五十二丁目
高橋九百五十三丁目
高橋九百五十四丁目
高橋九百五十五丁目
高橋九百五十六丁目
高橋九百五十七丁目
高橋九百五十八丁目
高橋九百五十九丁目
高橋九百六十丁目
高橋九百六十一丁目
高橋九百六十二丁目
高橋九百六十三丁目
高橋九百六十四丁目
高橋九百六十五丁目
高橋九百六十六丁目
高橋九百六十七丁目
高橋九百六十八丁目
高橋九百六十九丁目
高橋九百七十丁目
高橋九百七十一丁目
高橋九百七十二丁目
高橋九百七十三丁目
高橋九百七十四丁目
高橋九百七十五丁目
高橋九百七十六丁目
高橋九百七十七丁目
高橋九百七十八丁目
高橋九百七十九丁目
高橋九百八十丁目
高橋九百八十一丁目
高橋九百八十二丁目
高橋九百八十三丁目
高橋九百八十四丁目
高橋九百八十五丁目
高橋九百八十六丁目
高橋九百八十七丁目
高橋九百八十八丁目
高橋九百八十九丁目
高橋九百九十丁目
高橋九百九十一丁目
高橋九百九十二丁目
高橋九百九十三丁目
高橋九百九十四丁目
高橋九百九十五丁目
高橋九百九十六丁目
高橋九百九十七丁目
高橋九百九十八丁目
高橋九百九十九丁目
高橋千丁目
高橋千一丁目
高橋千二丁目
高橋千三丁目
高橋千四丁目
高橋千五丁目
高橋千六丁目
高橋千七丁目
高橋千八丁目
高橋千九丁目
高橋千十丁目
高橋千十一丁目
高橋千十二丁目
高橋千十三丁目
高橋千十四丁目
高橋千十五丁目
高橋千十六丁目
高橋千十七丁目
高橋千十八丁目
高橋千十九丁目
高橋千二十丁目
高橋千二十一丁目
高橋千二十二丁目
高橋千二十三丁目
高橋千二十四丁目
高橋千二十五丁目
高橋千二十六丁目
高橋千二十七丁目
高橋千二十八丁目
高橋千二十九丁目
高橋千三十丁目
高橋千三十一丁目
高橋千三十二丁目
高橋千三十三丁目
高橋千三十四丁目
高橋千三十五丁目
高橋千三十六丁目
高橋千三十七丁目
高橋千三十八丁目
高橋千三十九丁目
高橋千四十丁目
高橋千四十一丁目
高橋千四十二丁目
高橋千四十三丁目
高橋千四十四丁目
高橋千四十五丁目
高橋千四十六丁目
高橋千四十七丁目
高橋千四十八丁目
高橋千四十九丁目
高橋千五十丁目
高橋千五十一丁目
高橋千五十二丁目
高橋千五十三丁目
高橋千五十四丁目
高橋千五十五丁目
高橋千五十六丁目
高橋千五十七丁目
高橋千五十八丁目
高橋千五十九丁目
高橋千六十丁目
高橋千六十一丁目
高橋千六十二丁目
高橋千六十三丁目
高橋千六十四丁目
高橋千六十五丁目
高橋千六十六丁目
高橋千六十七丁目
高橋千六十八丁目
高橋千六十九丁目
高橋千七十丁目
高橋千七十一丁目
高橋千七十二丁目
高橋千七十三丁目
高橋千七十四丁目
高橋千七十五丁目
高橋千七十六丁目
高橋千七十七丁目
高橋千七十八丁目
高橋千七十九丁目
高橋千八十丁目
高橋千八十一丁目
高橋千八十二丁目
高橋千八十三丁目
高橋千八十四丁目
高橋千八十五丁目
高橋千八十六丁目
高橋千八十七丁目
高橋千八十八丁目
高橋千八十九丁目
高橋千九十丁目
高橋千九十一丁目
高橋千九十二丁目
高橋千九十三丁目
高橋千九十四丁目
高橋千九十五丁目
高橋千九十六丁目
高橋千九十七丁目
高橋千九十八丁目
高橋千九十九丁目
高橋二千丁目
高橋二千一丁目
高橋二千二丁目
高橋二千三丁目
高橋二千四丁目
高橋二千五丁目
高橋二千六丁目
高橋二千七丁目
高橋二千八丁目
高橋二千九丁目
高橋二千十丁目
高橋二千十一丁目
高橋二千十二丁目
高橋二千十三丁目
高橋二千十四丁目
高橋二千十五丁目
高橋二千十六丁目
高橋二千十七丁目
高橋二千十八丁目
高橋二千十九丁目
高橋二千二十丁目
高橋二千二十一丁目
高橋二千二十二丁目
高橋二千二十三丁目
高橋二千二十四丁目
高橋二千二十五丁目
高橋二千二十六丁目
高橋二千二十七丁目
高橋二千二十八丁目
高橋二千二十九丁目
高橋二千三十丁目
高橋二千三十一丁目
高橋二千三十二丁目
高橋二千三十三丁目
高橋二千三十四丁目
高橋二千三十五丁目
高橋二千三十六丁目
高橋二千三十七丁目
高橋二千三十八丁目
高橋二千三十九丁目
高橋二千四十丁目
高橋二千四十一丁目
高橋二千四十二丁目
高橋二千四十三丁目
高橋二千四十四丁目
高橋二千四十五丁目
高橋二千四十六丁目
高橋二千四十七丁目
高橋二千四十八丁目
高橋二千四十九丁目
高橋二千五十丁目
高橋二千五十一丁目
高橋二千五十二丁目
高橋二千五十三丁目
高橋二千五十四丁目
高橋二千五十五丁目
高橋二千五十六丁目
高橋二千五十七丁目
高橋二千五十八丁目
高橋二千五十九丁目
高橋二千六十丁目
高橋二千六十一丁目
高橋二千六十二丁目
高橋二千六十三丁目
高橋二千六十四丁目
高橋二千六十五丁目
高橋二千六十六丁目
高橋二千六十七丁目
高橋二千六十八丁目
高橋二千六十九丁目
高橋二千七十丁目
高橋二千七十一丁目
高橋二千七十二丁目
高橋二千七十三丁目
高橋二千七十四丁目
高橋二千七十五丁目
高橋二千七十六丁目
高橋二千七十七丁目
高橋二千七十八丁目
高橋二千七十九丁目
高橋二千八十丁目
高橋二千八十一丁目
高橋二千八十二丁目
高橋二千八十三丁目
高橋二千八十四丁目
高橋二千八十五丁目
高橋二千八十六丁目
高橋二千八十七丁目
高橋二千八十八丁目
高橋二千八十九丁目
高橋二千九十丁目
高橋二千九十一丁目
高橋二千九十二丁目
高橋二千九十三丁目
高橋二千九十四丁目
高橋二千九十五丁目
高橋二千九十六丁目
高橋二千九十七丁目
高橋二千九十八丁目
高橋二千九十九丁目
高橋三千丁目
高橋三千一丁目
高橋三千二丁目
高橋三千三丁目
高橋三千四丁目
高橋三千五丁目
高橋三千六丁目
高橋三千七丁目
高橋三千八丁目
高橋三千九丁目
高橋三千十丁目
高橋三千十一丁目
高橋三千十二丁目
高橋三千十三丁目
高橋三千十四丁目
高橋三千十五丁目
高橋三千十六丁目
高橋三千十七丁目
高橋三千十八丁目
高橋三千十九丁目
高橋三千二十丁目
高橋三千二十一丁目
高橋三千二十二丁目
高橋三千二十三丁目
高橋三千二十四丁目
高橋三千二十五丁目
高橋三千二十六丁目
高橋三千二十七丁目
高橋三千二十八丁目
高橋三千二十九丁目
高橋三千三十丁目
高橋三千三十一丁目
高橋三千三十二丁目
高橋三千三十三丁目
高橋三千三十四丁目
高橋三千三十五丁目
高橋三千三十六丁目
高橋三千三十七丁目
高橋三千三十八丁目
高橋三千三十九丁目
高橋三千四十丁目
高橋三千四十一丁目
高橋三千四十二丁目
高橋三千四十三丁目
高橋三千四十四丁目
高橋三千四十五丁目
高橋三千四十六丁目
高橋三千四十七丁目
高橋三千四十八丁目
高橋三千四十九丁目
高橋三千五十丁目
高橋三千五十一丁目
高橋三千五十二丁目
高橋三千五十三丁目
高橋三千五十四丁目
高橋三千五十五丁目
高橋三千五十六丁目
高橋三千五十七丁目
高橋三千五十八丁目
高橋三千五十九丁目
高橋三千六十丁目
高橋三千六十一丁目
高橋三千六十二丁目
高橋三千六十三丁目
高橋三千六十四丁目
高橋三千六十五丁目
高橋三千六十六丁目
高橋三千六十七丁目
高橋三千六十八丁目
高橋三千六十九丁目
高橋三千七十丁目
高橋三千七十一丁目
高橋三千七十二丁目
高橋三千七十三丁目
高橋三千七十四丁目
高橋三千七十五丁目
高橋三千七十六丁目
高橋三千七十七丁目
高橋三千七十八丁目
高橋三千七十九丁目
高橋三千八十丁目
高橋三千八十一丁目
高橋三千八十二丁目
高橋三千八十三丁目
高橋三千八十四丁目
高橋三千八十五丁目
高橋三千八十六丁目
高橋三千八十七丁目
高橋三千八十八丁目
高橋三千八十九丁目
高橋三千九十丁目
高橋三千九十一丁目
高橋三千九十二丁目
高橋三千九十三丁目
高橋三千九十四丁目
高橋三千九十五丁目
高橋三千九十六丁目
高橋三千九十七丁目
高橋三千九十八丁目
高橋三千九十九丁目
高橋四千丁目
高橋四千一丁目
高橋四千二丁目
高橋四千三丁目
高橋四千四丁目
高橋四千五丁目
高橋四千六丁目
高橋四千七丁目
高橋四千八丁目
高橋四千九丁目
高橋四千十丁目
高橋四千十一丁目
高橋四千十二丁目
高橋四千十三丁目
高橋四千十四丁目
高橋四千十五丁目
高橋四千十六丁目
高橋四千十七丁目
高橋四千十八丁目
高橋四千十九丁目
高橋四千二十丁目
高橋四千二十一丁目
高橋四千二十二丁目
高橋四千二十三丁目
高橋四千二十四丁目
高橋四千二十五丁目
高橋四千二十六丁目
高橋四千二十七丁目
高橋四千二十八丁目
高橋四千二十九丁目
高橋四千三十丁目
高橋四千三十一丁目
高橋四千三十二丁目
高



写真②　真珠院山門に掲出される扁額（1998年 9 月写）

写真③　真珠院山門（1998年 9 月写）

記述があるという。[注3] 境内には、高部まちづくりの会が昭和五十六年に建てた「真珠院概況」が掲出され、扁額にも言及する。

かなり長い文ではあるが、寺院の由来がよく判るので、次に記してみよう。

当山は元、真言宗に属し、今川範国公の開創した国光寺で、当時は今川氏の別荘があった処である。その後、今川義忠公は、一三八二年祖先の遺風を追慕して寺を復興し曹洞宗鳳凰山真珠院と改宗した。一四五二年洞慶院三世大巖禅師の法嗣、賢窓常俊大和尚を開山に拝請した。師は大平山溪畔の石上に木喰座定し、道誉は近郷に名高かった。御本尊は、釈迦牟尼仏で運慶の腹ごもりの作と伝えられている。境内は二〇六三坪あり曹洞宗の綿密な道場で禅風を宣揚している。境内には、青面金剛尊（年代不詳）秋葉三尺坊大権現（一六九六年）鎮守白山妙理大権現（一五二三年）花山天神（一七四五年）不動明王尊（一七四六年）を祭祉している。当山は、今川家代々諸公の崇敬を戴いた。徳川家康は、朱印地を十五石と改め寺領として下付された。又、駿府在城の時（一六〇一）住僧六世鳳巖全察和尚を召されて仏法を聴問された。開山当時は、七堂伽藍の形態を整えていたが、文化九年（一七二二）、明治九年（一八七六）と二度の火災を受け、殿堂、什宝等多くの文化財を失ったことは残念である。山門に掲げた鳳凰山の額（一七四四年）は、昭和五十五年清水市の文化財に指定された。山門側の梛（なぎ）は、昭和五十四年清水市の天然樹木に指定された。昭和の中期より鐘楼堂、開山堂、位牌堂、玄関、庫裡等が建立され境内が整備された。

李三錫の書を掲出する二寺

牛欄寺は、真珠院のほぼ南方約一キロに位置している。一万分の一地形図に竜南街道と記載され、梅ヶ谷ゆきのバスが通る道筋からはずれ、塩田川を渡った山裾に存在する。この寺と後述の萬象寺に朝鮮通信使にかかわる扁額があることは、一九九四年に県立清水南高校郷土研究部の

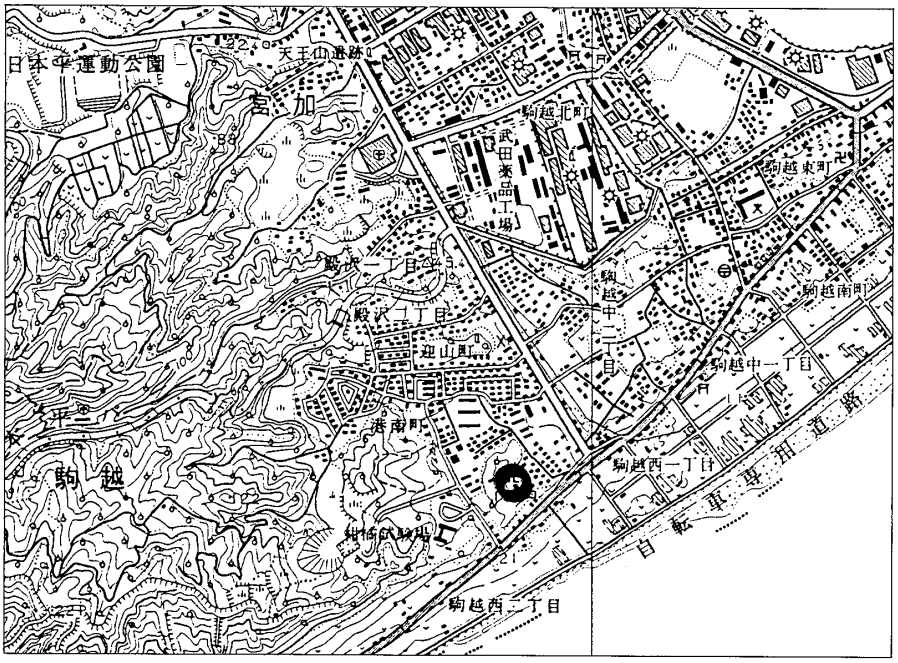
写真④　牛欄寺山門（1998年９月写）

写真⑤　牛欄寺山門の扁額（1998年９月写）

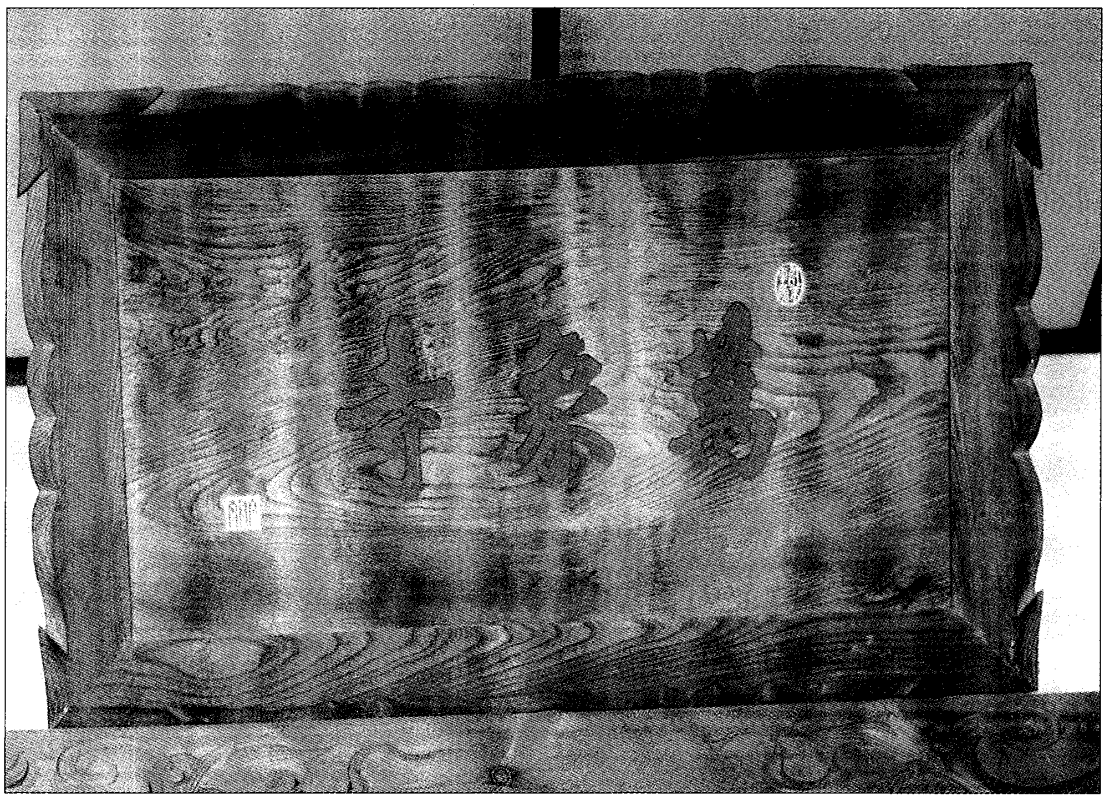
調査によって「発見」された由である。[注4]

牛欄寺所蔵の扁額は、山門に掲出されていた。かたわらには、ここでも高部まちづくりの会による表示板があるのだが、ところどころ文字が消えて、全文を判読できない。

西国八八ヶ寺、三八番札所の牛欄寺は、鎌倉時代の作とされる聖観世音菩薩を本尊としている。扁額を掲げる山門は、駿府城の城門を移設と記されている。



地図③　1：25,000「静岡東部」図幅
平成６年修正
〇が萬象寺の位置



写真⑥　萬象寺本堂の扁額（1998年９月写）

真珠院、牛欄寺が扁額を山門に掲げるのに対し、南麓に久能山東照宮を配する日本平の丘陵が折戸湾に落ちこむ南東端の位置に寺塔を構える萬象寺の場合は、扁額は本堂の軒先に掲出されていた。

牛欄寺、萬象寺の双方とも、揮毫者は第七次通信使の写字官李三錫（雪月堂）である。真珠院の扁額には、朝鮮國花菴と署名されて出自が明らかであるが、萬象寺の扁額には、雪月堂と記すだけで、それを第七次通信使の写字官の筆であると判定した県立清水南高校のメンバーの努力に敬服する。

真珠院、牛欄寺、萬象寺の位置は、第七次・第八次の朝鮮通信使の宿泊地となった東海道江尻宿とは離れた位置にあり、また東海道に沿ってもいない。そうした処に朝鮮通信使構成員の書が残っていることは、その通行が多くの人たちから関心を持たれていた証拠と解してよいのだろう。

多数の扁額がある清見寺

府中（静岡）で昼食した朝鮮通信使が第四次から宿泊したのは、東海道江尻宿であったが、街道と宿場の整備が不充分であった慶長十二年（一六〇七年、第一次）と寛永元年（一六二四年、第三次）の通行では、興津の清見寺が三使の宿舎にあてられた。

帝国議会開設に間に合すべく、藩閥政府の威信を賭けて建設が強行されたため、境内を線路が横切り、総門が仏殿、鐘楼、方丈などと分断されている清見寺の正称は、巨鼇山（きょごうさん）清見禅寺である。折戸湾をはさんで三保松原と相対し、絶景を勝されたこの地は、朝鮮通信使往来の遺跡がよく保たれているとして、平成六年十月十二日付「官報」告示によって、国指定史跡となっている。

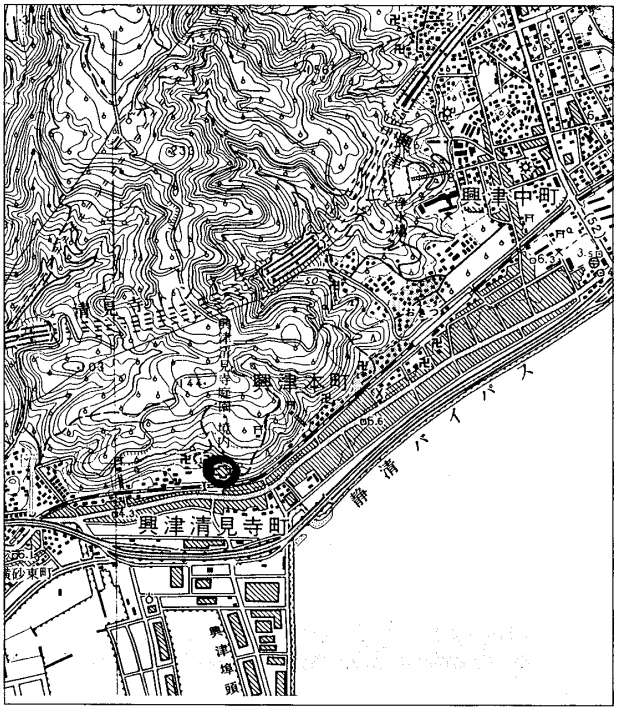
清見寺への最寄駅は、東海道本線興津駅で、国道1号線を走る静岡鉄道バスの便もあるけれど、線路に沿う小道を清水駅（下り方向）に向けて歩き、十五分ほどで、総門に通じる石段の前にたつことができる。

簡素なつくりの総門には、「東海名區」の扁額が掲げられるが、揮毫者

は第十次通信使の倭学上通事の玄徳潤（錦谷）である。[注5] 総門をくぐると前を車道が横切り、行手はガードレールでさえぎられる。左に曲り、次は右折して鋳物の高欄を配した鈑桁（プレートガーダー）の清見寺跨線橋で東海道本線を越えると、やっと寺院の境内という雰囲気になる。

線路をはさんで総門と相対する位置にも寺門があり、左右に築土塀を連ねるが、総門と直結する道はない。総門から二の門に達するには、直角に四回も曲らなければならないのだが、これは総門と二の門を直結していた道路と跨線橋が、単線で開通した東海道線を複線化したときに撤去され、かわりに複線のレールをまたぐ現存の清見寺跨線橋を、少しずらした位置に新設したために生じた現象であろう。

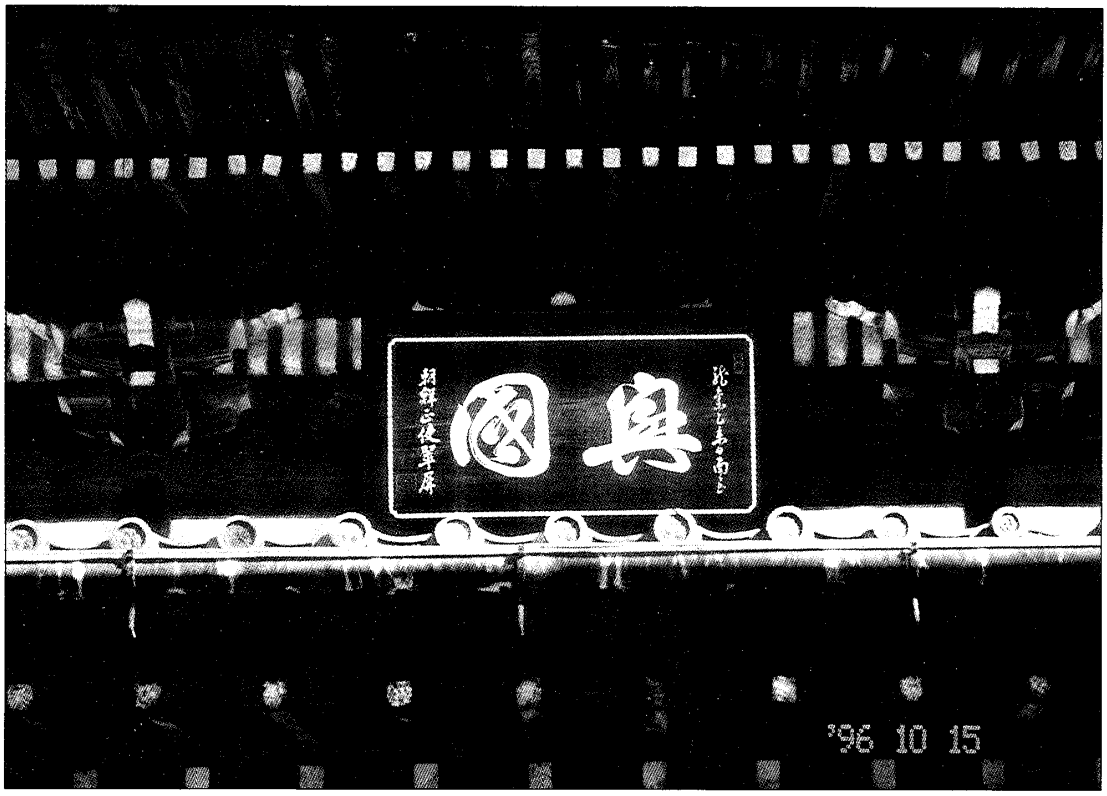
二の門をくぐると、正面に天保一三年（一八四四年）建立の仏殿が配され、「興國」と記した扁額が眼に入る。朝鮮正使翠屏の署名から第六次通信使の正使趙珩の揮毫と判明する。



地図④　1：25,000 興津　平成７年修正
〇が清見寺の位置
鉄道に平行して東海道が延びる

写真⑧　清見寺総門と扁額、東海道本線の線路をはさんで鐘楼(左) と潮音閣(右) が建っている（1998年９月写）

写真⑦　清見寺鐘楼とＪＲ東海道本線、総門は線路の左手にある（1998年９月写）



写真⑨　清見寺本堂の扁額（1996年10月写）

大方丈内にも多くの扁額がある

境内に建つ「由緒」の標示には、次の様に記されている。

当山は禅臨済宗で、古来より景色の美しさで名高かった。寺の初めは古く奈良朝時代この地に関所が設けられその守護として傍に仏堂が建立せられたのが始めと伝えられる。而し寺としての基盤が固ったのは鎌倉時代（一二六四）後足利尊氏この寺を再興（一三四二）徳川時代を経て今日に至った。その間、幾度か戦禍を受けるも、再建復興してきた。

仏殿に右隣して建つ大方丈には、当初は宿泊し、以後も東海一の風光明媚を賞して立ち寄った通信使構成員による書跡　詩文などが残されている。これも賞賛の的となった裏山に作られた庭園ともども、参観謝絶とされているのが残念である。

大方丈と通路をはさんで建てられる鐘楼は、文久三年（一八六二年）建立ゆえ、通信使来日が杜絶えてからのものであるが、「瓊瑤（けいよう）世界」の扁額は第五次通信使の製述官朴安期（螺山）に基いている。現存する建物で最の古い元和二年（一六一六年）建立の大玄関に隣接する二階建の望楼に掲げられた「潮音閣」の扁額は、第八次通信使の副使任守幹（靖菴）の揮毫とされている[注6]が、望楼二階軒下の扁額には署名がなく、大方丈の窓があいていたため、たまたまみかけた同書体の「潮音閣」の扁額には、異なる署名があった。

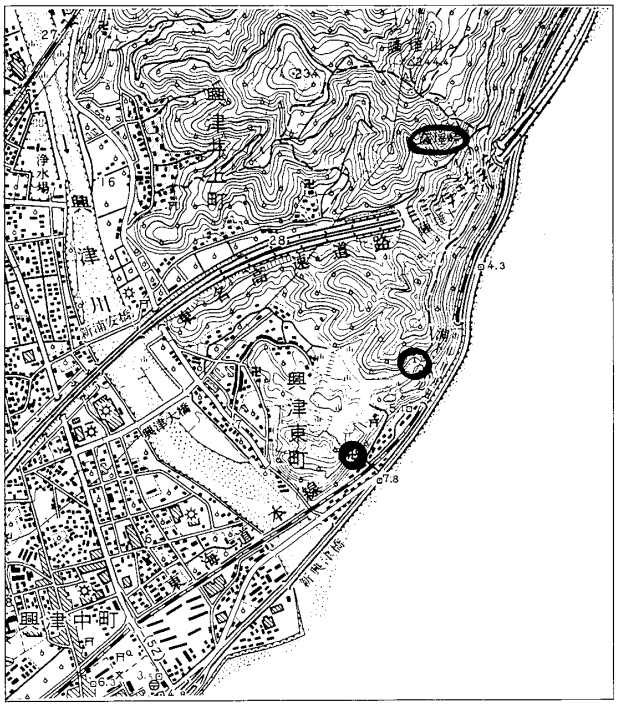
境内には放浪の天才画家といわれた切り絵作者山下清による「清見寺スケッチの思い出」を記した立札がある。〝このお寺は古っぽしいけれど上等に見えるな　お寺の前庭のところを汽車の東海道線が走っているのはどうゆうわけかな　お寺より汽車の方が大切なのでお寺の人はそんしたな　お寺から見える海は　うめたて工事であんまりきれいじゃないなお寺の人はよその人に自分のお寺がきれいと思われるのがいいか自分のお寺から見る景色がいい方がいいかどっちだろうな〟と記す感想は、明治と高度成長の暴挙にカチンとくるものがあった結果といえるだろう。

写真⑩　鐘楼第二層の軒下に掲出された扁額（1998年９月写）

写真⑪　大方丈内部に掲出される潮音閣の扁額（1998年９月写）

通信使通行で開かれた峠道

東海道（現・国道一号線）を東に進むと、眼前に薩埵峠の急峻な山並みが迫ってくる。現在では急崖下の波打ぎわを道路は通り抜け、東海道本線は洞トンネルに頼っている。こうした手だては、安政元年（一八五四年）の大地震で地盤が隆起した結果であり、江戸初期までは命がけで通りぬける街道有数の難所であった。薩埵峠にかかわる街道の推移を記した最近のレポートに、清水元「東海道　薩埵峠と由比」があるが、その中で紹介されている東海道名所記には〝峠の下にてあまどもあわびをとる也。親しらず子しらず、ここは左の方は山にて高く右は大海なり。海ばたは一騎うちの道にて打ち寄する浪大なり。道行く人さらに後をかへりみるいとまなし。さてこそ親しらず子しらずとは名付けたれ。北国の道中にも此の名ある所、是れも同じく波うちぎはなり〟の言及があるとされている。注7



地図⑤　1：25,000 興津　平成７年修正
卍が海岸寺の位置　○が江戸時代初期開削の薩埵峠、薩埵峠の注記は現在の位置

この様な危険な道を朝鮮通信使の通行にあてる訳にはいかないとして、幕府が薩埵山の中腹に道路を開いたのは、明暦元年（一六五五年）であった。以来、その最高点を薩埵峠と呼ぶに至ったのである。近年はその地点には標柱が建てられ、次に示す文を配した標示板も設けて、ことの由来を伝えている。

薩埵峠の歴史

鎌倉時代に由比倉沢の海中から網にかかって引揚げられた薩埵地蔵をこの山上にお祀したので、それ以後薩埵山と呼ぶ。上代には岩城山と称し万葉集にも詠まれている。

（岩城山ただ越え来ませ磯崎の不来海の浜にわれ立ち待たん）

ここに道が開かれたのは一六五五（明暦元年）朝鮮使節の来朝を迎えるためで、それまでの東海道は、崖下の海岸を波の寄せ退く間合を見て岩伝いに駈け抜ける「親しらず子しらず」の難所であった。

この道は大名行列も通ったので道幅は四メートル以上はあった。畑の奥にいまも石積みの跡が見られ、そこまでが江戸時代の道路である。

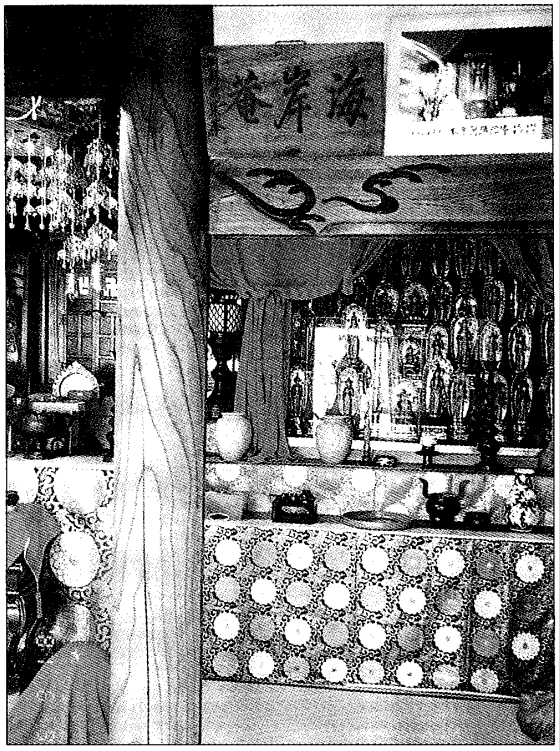
今のように海岸が通れるようになったのは、安政の大地震（一八五四年）で地盤が隆起し陸地が生じた結果である。

興津地区まちづくり推進委員会

小さな扁額のある海岸寺

興津川を渡ると、旧東海道は東海道本線を踏切でこえ、数百メートル歩くと峠への急坂となるのだが、その直前に左手の山腹にみかける曹洞宗海岸寺には、朝鮮通信使の構成員とされる紫峯の署名を配した小型の扁額が本堂の框に取りつけられている。

駿河国百地蔵菩薩霊場第八六番札所と東海八八ヶ所霊場弘法大師第四九番札所を兼ねる海岸寺については「観音山海岸寺由緒沿革」によって、江戸時代初期に波除け観音堂としての創建と判明する。天明年間（一七八一—八八）に火災で建物・什物一切を焼失したとされているが、寛永十三年（一六三六年）に朝鮮通信使一行がたち寄って残した扁額が今日に伝わるのは、寺宝としていち早く持ちだされた結果かもしれない。



写真⑫　海岸寺本堂内の扁額（1999年８月写）

「海岸菴　朝鮮国紫峰」と記された扁額は、これまで眼にしてきたものに比べて著しく小型なもので、五〇×二〇センチほどのものが本堂の框に取り付けられている。

この扁額の由来については、由緒沿革に〝海岸寺に通信使が訪れたのは、その第四回目の寛永十三年（一六三六年）十二月一日の復路であった。江戸の将軍家からの帰途、清見寺に休息する目的で峠越えして来て、おりからの出水で興津川の川止めにあい、しばらく逗留した。一行の中にいた紫峰が木片に「海岸庵」と書き、以前は観音堂とのみ称していた堂守を、これに因んで以後はその名称を使用したと伝承されている。清水市内では、清見寺と真珠院と共に、有名な墨跡の一つである〟と記されている。

線路と直角の方向に登る急坂をあがりきった場所は宅地造成を途中で取りやめたのか、一木一草ない裸地でそうした緩斜面を右折して登りきり、最後は人ひとり通れるだけの階段状の小道の頂上に、薩埵峠の位置

を示す標柱が建っていた。前記の「薩埵峠の歴史」を記す表示板はこの位置の山側に建っている。

清水元「東海道　薩埵峠と由比」によれば、海岸寺を左にみて登る急坂は、中道と呼ばれる明暦元年に開かれた古道の名残りで、興津川からの登り口が危険となり、天和二年（一六八二年）の第八次通信使を前に、洞集落を通り、洞地区の共同墓地で中道に合流する上道が開削されたと記されている。注7

二万五千分の一地形図「興津」図幅（平成七年修正）に薩埵峠の注記がある付近から前記の表示板のある位置までは、遊歩道としての整備が進み、展望台も設けられている。

新旧二つある薩埵峠

薩埵峠頂上から由比側は緩傾斜の歩きやすい道で、峠よりには表示板の記載通り、石垣が続いている。駿河湾へと急斜面で落ちこむ山腹は、ほとんどがみかん園で、資材や収穫物を運ぶ簡易モノレールの線路が、縦横に設けられていた。

眼下に東海道本線、国道1号線、東名自動車道を見下すあたりまで歩くと、右斜め前方に晴天ならば駿河湾ごしに富士山を望むことができる。

頂上から一キロほど歩いた位置で車道と出合う。ここにも薩埵峠の標柱が建っているのは、興津川を新浦安橋で渡り、東名自動車道に沿って鞍部を越える位置に二万五千分の一地形図が薩埵峠の注記を入れるからであろう。またその影響だろうか。その鞍部から駿河湾を望む写真に通信使ゆかりの薩埵峠とする説明を配した事例をみかけるが、後年の存在とみなすべきだろう。注8

二万五千分の一地形図に薩埵峠の注記が入る位置が、清水市と庵原郡由比町の郡・市界である。この地点から東海道由比宿に属する西倉沢の集落へ降っていく坂道も緩傾斜で、ほぼ一キロ歩くと、安政元年の大地震に伴う海岸隆起で、親知らず子知らずの難をまぬかれたため、水平方向に開かれた下道と合流する。しかし下道開削は通信使来日が杜絶えた

写真⑬　江戸時代初期開削の薩埵峠頂上（1996年10月写）

写真⑭　自然歩道となった江戸時代の東海道、往時は左側の石垣までの道幅があった（1996年10月写）

写真⑮　江戸時代初期開削の薩埵峠から北東方をみる、鉄道は東海道本線、道路は国道１号線（1996年10月写）

後の事業であった。

西倉沢の上道、下道合流点には、一里塚跡の標柱が建っている。[注9]

[謝辞]

藤枝宿の探索には、小笠郡菊川町在住の大庭正八氏、静岡市、清水市興津地区の探索には、県立庵原高等学校教諭北村欽哉氏からそれぞれ多大の教示を賜った。記して感謝の気持を現したい。また北村教諭指導による県立清水南高等学校郷土研究部の扁額調査にかかわる成果については、次回にも言及したい。

注

1　藤枝志太仏教会『藤枝・岡部・大井川の寺院』（平成十年）一三六・七ページ。

2　申維翰著、姜在彦訳注『海游録—朝鮮通信使の日本紀行』（一九七四年）東洋文庫二五二（平凡社）一六四・五ページ。

3　岡部芳雄「朝鮮通信使の足跡を清水に見る」歴史論叢　第四号（平成八年）八三—九〇ページ。

4　右の八八ページ。

5　米田一夫『江戸時代の朝鮮通信使と遠江・駿河』（一九八八年）樹海社、九九ページ。

6　岡部芳雄「朝鮮通信使も見た清見寺の庭」歴史論叢　第五号（平成十一年）一三三ページ。

7　清水元「東海道　薩埵峠と由比」地図の友　四一の一〇（一九九九年）六ページ。

8　由比町企画観光課「薩埵峠を歩いて見よう！」は、東名高速道路に沿うルートを上道としているが、昔の道ではないと注記する。

9　7の七ページ。